

都市農村交流を地域住民の自己表現の場に

京都府推薦都市農村交流アドバイザー（分野：観光交流）
湊 美香（一般財団法人 和東町活性化センター）

和東町活性化センターの概要

京都府南部に位置する和東町は、人口 1700 世帯 3400 名ほど、茶業が盛んで町中を茶畑が覆う美しい町です。和東町の維持発展と人口減少を食い止めるため、和東町活性化センターでは「人と人」「人とモノ」「人と地域」を繋げる「ハブ・ステーション」として活動しています。その中でも特に観光に力を入れており、現在はお茶にまつわるさまざまな文化体験や、農村民泊などの事業を行っています。

和東町のポテンシャル

① 日本有数の茶産地

宇治茶の主産地で、京都府内の茶生産量の約半分を生産しており、高品質なお茶として高値で取引される。また近年では、その技術を生かし碾茶（抹茶の原料）の生産にも力を入れており、抹茶ブームの影響を受け生産量を伸ばしている。

② 美しい茶畑景観

和東町の茶畑は他ではあまり見られない「山なり茶園」で、鎌倉時代から脈々と受け継がれてきた茶畑景観は、「京都府景観資産第一号」に登録、また「日本で最も美しい村連合」にも加盟しており、2015 年には「日本茶 800 年の歴史散歩」として日本遺産にも認定された。

③ お茶と共にある暮らし

茶農家は町内に約 250 世帯ほどあり、その基幹産業の中で育まれてきた独自のアイデンティティを持っている。

④ 立地の良さ

京都市、大阪市から 70 分、奈良市から 40 分と都会に近い田舎である。



具体的な取り組み

和束町が持つポテンシャル「ここで見られない景観」「ここでも味わえないお茶」「ここでも体験できない文化」を活かした、茶摘み体験や美味しいお茶の淹れ方体験など10を超える体験を準備し、お客様のご希望によって組み合わせたオリジナルツアーの提供、イベントや単発ツアーなどを開催しています。その他、教育体験旅行を中心に地域住民の家に宿泊する農村民泊体験も提供しており、こちらは和束町だけでなく、考えに賛同いただいた近隣市町村にまで広がり、京都府南部エリアで連携しながら進めています。



地域への効果

「地域」が「活性化」しているとはどういう状態でしょうか。交流人口や観光消費額の増加も一つの指標にはなりますが、最も重要なことは「住民が自分たちの好きなことで地域に関わっていること」と考えています。それはすぐに数字には表れないかもしれませんが、その関わりが地域への誇りを生み、そこにコミュニティが生まれ、それが地域の魅力となり、その魅力に人が集まるからです。私たちが行う観光事業は、その関わりの一つのきっかけ作りと位置付けています。地域の方々に活動の場を提供すること、何か特技がある方には体験インストラクターを、人と話すのが好きな方には案内ガイドを、子供たちが好きな方には農村民泊の受入家庭を、つまり誰もが関われる場、活躍できる場を作ることによって、魅力のある町づくりにつなげたいと考えています。そのような目的から、活性化センターでは、対外向けの対応だけでなく、対内向けとして受入家庭の交流会や勉強会、ガイドの研修会などを定期的で開催しています。それは体験プログラムの質の向上はもちろんのこと、参加者同士がコミュニケーションを取れる場としても大きな役割を果たしています。同じ地域に住みながらも各々の暮らしがある中で、「和束町に来ていただく方々に楽しんでもらいたい」というような「共通の目的」を持つことは地域の活性化にはとても重要なことです。町の規模に合わせた観光、地域住民目線の観光を作っていくことで、事業が持続可能となり、大きな効果を得ることが出来るものと考えています。

